

Ichiba journal Canvas vol. 04

安心できるつながりの中で、自らの学びを楽しみ、新たな価値を生み出す児童の育成
～造形的な見方・考え方を働かせながら、自分の思いを表現できる学びの工夫～

5年生 図画工作科 「あったらいい町 こんな町」

日中はまだ汗ばむ暑さですが、暑さの中にも秋の気配が感じられる頃になりました。秋は「芸術の秋」とも言われる季節ですが、市場小学校の校舎内も、子どもたちの思いの込められた様々な作品で色鮮やかに彩られています。掲示された作品の前で足を止めて「この色きれい!」「どうやって描いたんやろ?」という話をする子どもたち。作品を通して生まれたつながりが嬉しいですし、このような環境の中で子どもたちが自然と働かせている感性や想像力を大切に育てていきたいと感じます。



次の日、5年生の作った空間で遊び他学年の子どもたち。回工を通して学年を越えつながりも生まれました。これからも大切にしたいことです。



さて、今回のCanvasは、授業研究会として5年生で行った図画工作科「あったらいい町 こんな町」の学習の様子についてご紹介します。この題材では、想像をふくらませて、表したい空想の町を考え「絵」に表すこと、その中で、形や色の組み合わせを工夫することをねらっています。そのためには、多くの「形」や「色」、「空間」に触れ、感じる事が大切なのではないかと考え、この題材に入る前に、造形遊びに取り組みました。取り組んだ造形遊びは「この空間いい感じ!」。校舎のある一角の空間を、すずらんテープを使って変化させていきます。友達同士で対話したり、協力したりしながら楽しんで空間づくりを進める子どもたち。その中でテープの質感や、光との組み合わせ、色の重なり等に気付き、工夫が広がっていききました。



学んだ技法を、自分のイメージに合わせて自由に選択して取り入れています。学びをつなげる、活かす、そんな姿が素敵です!

そのような中で「あったらいい町ってどんな町?」という問いかけから始まったこの学習。「球場が近くにあったらいい!」という1人のつぶやきから、話がどんどんとふくらんでいきます。その中で空想の町を考える視点として「どんな建物がある?」「どんな人が住んでいる?」「何が起きる?」という3つが生まれてきました。友達とお互いに質問をしないながら、どんどんとイメージをふくらませる子どもたち。対話を通すからこそ、自分の思いがより明確になっていきます。

自分のイメージや、「こうしたい!」という思いが生れたら、実際にそれを画用紙の上に表現していきます。「私の町は宇宙!だから、まずはこの色画用紙を宇宙の色にする。グラデーションにしたいから、この2色!」と話す子。「右と左で季節の違う感じを出したいんだけど、どうしたらいいか悩んでいる。」と友達に相談すると「例えば、春だったら私はピンクのイメージだから、そういうイメージの色で分けるのはどう?」と答えが返ってくる場面。

「色」や「形」等の造形的な視点、これまで学習した技法を活かしながら、自分の思いを表現しようとする姿がたくさん見られました。困った時、悩んだ時にすぐに相談し合える「安心できるつながり」があるからこそ、生み出される新たな自分の気付きや価値観。主題にもつながる子どもたちの姿を嬉しく思います。今後もこのようにつながりあえる学級作り、学び方を学ぶことのできる授業づくりを一体的に進めていきます。

イメージが広がりにくい...
こんな、どうしたらいいかな?
そんな時は、いつでも
周りの友達と相談し合える5年生!
考えが広がっていきます😊



自分の立てたためあてに対して、自分自身の学び方をふりかえることのできる内容が盛り込まれています!自らの学びを調整する力を今後にも育んでいきたいです。

子どもたちの振り返りより

- 「画用紙に絵を描き始める」というめあてを立てていて、今日は画用紙に一個も書けなかったけど、友達と交流してみても、滑り台とか音筒とか、宇宙の町なんて人いても、私が想像してなかった人ものいたからすごいなと思いました。
- 「交流をしてどんな想像をふくらませていく」というめあてを立てていたので、交流をしていけたけど、交流に時間を使わずに済んだので、次はそこを直せるようにしたいです。でも、想像を膨らませることはできたので、それは続けていきたいです。

